

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」  
発展に向けた提言

私どもは「国際交流基金の運営に関する諮問委員会」として、平成 26 年度より国際交流基金の事業及び組織の運営全般に対して安藤裕康理事長に意見具申を行ってまいりました。この度、その立場を通じて得た経験から、現在、国際交流基金が実施を担っている「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」について、特にひとことご提言申し上げます。

安倍総理が平成 25（2013）年 12 月に東京で開催された日・ASEAN 特別首脳会議の場においてご提唱された「文化の WA プロジェクト」は、開始から丸 5 年が経過いたしました。本プロジェクトは、日本語学習支援事業（日本語パートナーズ）と双方向の芸術・文化交流事業を二つの柱として大きな成果を上げ、国際交流基金の最も中核的な事業の一つに成長しております。

アジア各地の中学校や高校に派遣された日本語教育アシスタント（日本語パートナーズ）は、日本人の若者からシニアに至るまで幅広い年齢層の民間の方々に、現地の子供たちとの間に深い絆を築いています。派遣を終えたパートナーズ達も日本国内やアジアの国々で、両者をつなぐ架け橋として活躍はじめており、日本社会の大きな資産となっています。双方向の文化交流も、映画やダンス、音楽、美術、スポーツなど多様な芸術・文化のジャンルにおいて、日本人とアジアの人びとの多くの出会いを生み出し、交流の輪が飛躍的に広がりました。アジア諸国の側からも本事業の意義を高く評価し、継続を求める強い声が上がっております。

「文化の WA プロジェクト」は、現在、令和 2（2020）年度までの時限的予算で実施されております。安倍総理のご英断により開始された本プロジェクトは5年をかけて、芽を吹き、予想以上に大きな木へと育ちました。今、その木の上からは新たなアジアと日本の地平線を望むことができます。

この資産を引き継ぎ、発展させ、「令和」の時代にふさわしい、これまでとは次元の異なる新たなアジアとの共生社会を築いていくことが今、日本に求められていると私どもは考えます。

この5年間で構築した日本とアジア諸国との絆を、より強固で安定したものにしていくため、日本語学習支援事業及び双方向の芸術・文化交流事業を、本年 11 月の日 A S E A N 首脳会議の機会も活用し、より発展させた形でこれからも実施していただくことを切に要望いたします。人びととの交流を通じて育まれた絆は、政治、安全保障、経済などハードパワーを中心とする伝統的な外交関係に厚みをもたらし、これからの日本とアジアの新たな時代の礎となり、令和の日本社会にとって必ずや大きなプラスをもたらすものと確信いたします。

令和元年 10 月 31 日

国際交流基金の運営に関する諮問委員会 委員一同

五百旗頭 真（座長）

池内 恵

川島 真

久保 文明

迫田 久美子

建畠 哲

千野 境子

永井 多恵子

細谷 雄一

宮本 亜門

渡辺 靖